

研究テーマ：速読速解力を向上させるための指導の工夫

所属高知追手前高等学校

氏名森 隆彦

R G S H 3

- 1 **研究の背景** 本校は受験校であり、大学進学希望者が大部分である。センター試験や二次試験では英文をいかに速読速解するかが重要になる。現在 2 年生の人文語学コース 2 クラス (2-3 / 2-4H) を担当している。英語が大の苦手という生徒は少ないが、英文読解 (速読) は苦手意識を持っており、読解力をつけたいと願う生徒が多い。どうやれば速読速解力を効果的につけることができるかが課題になった。
- 2 **リサーチクエスト** 最近日本語・英語教育でも再ブームとなっている音読を重視しながら、速読速解力を目指す指導をどのようにするか。また、英文の速読力の理想は WPM120 とされているが、今回は WPM100 を目指しての指導方法の研究をリサーチクエストとした。

- 3 **予備調査** 英語力を示すデータ(1)(進研ゼミ：4月)

両クラスとも語彙・文法・文構成については 6 割近い正答率であるが、読解は 5 0 % を下回っている。(右の表は語彙・文法・文構成については省略している)

英語力を示すデータ(2)(WPM テスト 4 月 ~ 7 月実施)

月 1 回実施したが、4 月からほぼ 6 5 前後を横ばいの状態が続いていた。

アンケート・生徒の自己評価より

診断項目	2 - 3 H	2 - 4 H	両平均
読解	49.5	48.5	49.0
合計	56.7	55.1	54.7

W P M	2 - 3 H	2 - 4 H	両平均
4 ~ 7 月	7 0	6 3	6 6

- (1) 音読については、生徒自身は嫌っておらず、授業では目標時間を設定 (1 分間 1 3 0 語程度) して音読させている。内容を意識しながらの音読も 6 割の生徒ができています。しかし、家庭で音読を積極的に行っている生徒は 1 割にも満たない。(理由：めんどくさい。時間がない)
- (2) 速読の一助として、1 年次よりフレーズリーディング (スラッシュリーディング) を指導したにもかかわらず、これを現在英文読解に活用している生徒は 4 割程度にとどまっていた。
- (3) 和訳中渡し授業 (ワークシートによる大意読み (速読優先) を行い、全訳配布) については、7 割の生徒が支持。ただし、6 割の生徒は家庭学習ができておらず、未消化になりがち。語彙数を増やし、速読力やリスニング力をアップさせたいと願っている生徒が多かった。

- 4 **仮説の設定** 以上の予備調査を踏まえて、以下のような 3 つの仮説を立てて、実践することに決めた。
- 仮説 1 Phrase Reading を基本にした音読・シャドーイングを実施し、Paragraph Reading につなげる指導として、まずは英文のトピックを探すことを定着させることで、速読力の向上につながらないか。
- 仮説 2 家庭学習における音読の定着化 (C D を使った音読・テストの実施) を図り、音読により集中力・記憶力・表現力を求めて、効果的なシャドーイングにつなげる。Input と Output を継続的に行うことで、リスニング力を高め、速読力の向上につながらないか。
- 仮説 3 生徒が不安に考えている語彙については、継続的な単語テストを行い語彙力をアップさせたり、文中での推測・予測ができるようにする。それに仮説 1・2 を十分習熟した上で、最終的にパラグラフの概要や要点をよりの確に捉える読解 - Skimming にもっていくようにする。こうすることで総合的に

速読力を上げることに繋がらないか。

5 **計画の実践** 仮説に沿って、以下のような指導を試みた。

(1) ワークシートや教科書の工夫

本文はすべてフレーズに分けたものをプリントし、音読の際にフレーズを意識させ、出来る限りから読みにならないようにする。教科書は比較的やさしく、速読しやすいものを選択しており、教科書とワークシートを使って、文章の概要や要点を読み取ったり、単語の推測の方法などが学べるようにした。

(2) 家庭学習における音読の徹底（シャドーイングテストの実施）

さらに音読を徹底させるために教科書準拠のCDを全員に持たせ、音読の記録用紙を作成。生徒には家でシャドーイングを練習させ、記録用紙に感想を書いて提出させるようにした。また、定期的に1人1人シャドーイングテストを実施し、チェックを行った。授業ではペアの生徒の英語に合わせた同時通訳も取り入れてみた。

(3) 単語テストや本文テストの工夫

単語テストは継続的に実施。実施方法も音読したものを生徒に書かせ、その単語が使われるフレーズを生徒に選ばせて和文英訳方式は行わないようにした。また本文の確認テストや定期テストもシャドーイングによる英文の定着を狙った形式にした。（英文間違い探しや、ばらばら英文の再構成、つなぎ語問題など）

6 **実践の結果** 計画の実践等を通じて以下のような結果・及び生徒からの感想が得られた。

(1) ワークシートを通じて多角的に英文を見る（何度も英文を読む）ということに生徒たちも慣れ、アウトラインを掴む時間（タスクをこなす時間）も回数を追うごとに速くなってきている。逐語訳をしないことには抵抗はなくなってきている。しかし、速読中心のため文法に不安を感じている生徒は1/3ほどいる。

(2) シャドーイングについては、家庭での取り組む時間は限られているものの、9割の生徒は支持。英語の発音やリズムに注意深くなり、音読の楽しさも感じている。シャドーイングテストでも、日ごろ英語を苦手としている生徒たちが完璧にこなし、驚かされた。教室の同時通訳ペアワークも積極的に取り組んでいた。

(3) シャドーイングの取り組みの良さに比例して、本文確認テスト等も平均80点ほどで上出来であった。また単語テストも聞き取りの正確さが良くなってきている。聞き取りの上達を感じている生徒が増えてきた。

7 **結果の検証** 数値的なものも含めて、取り組みを通じての結果の検証をまとめてみた。

(1) 速読力の指標の1つとなるWPMの変化

（＊本校は10月より後期授業開始）

WPMは扱う英文の難易度によって左右される面がかなりあると思われるが、リサーチ前半と比べて、

後半はかなり安定して高い数字になった。目標としていたWPM100も一応クリアした形になった。

WPM	4～7月	10～12月	増 減
2 - 3 H	70	108	+38
2 - 4 H	63	97	+34
平 均	66	102	+36

(2) 全国模試に見る長文読解の得点率の変化

WPMと比べると全国模試の長文読解の数字は変化がなかった。（ただし11月の英文の方がかなり難易度があがっているように思われ、現状維持は健闘と

長文読解	7月	11月	増 減
2 - 3 H	49	51	+2
2 - 4 H	48	46	-2
平 均	49	49	0

言っても良いと思われる。（全国平均は36と33）

(3) 音読（シャドーイング）の効果有

シャドーイングの導入により、音読やフレーズ読解のアップに効果を感じている生徒が増えた。

8 **成果と今後の課題**

この活動（リサーチクエスト）を通して、音読・フレーズ読解・スキミングに慣れ、長文読解に抵抗

を感じる生徒が少なくなったのは一定の成果と言える。ただ速読を追及するあまり文法や語彙を重視しなかったのも、それに不安を感じている生徒も少なくない。今回のリサーチは忙しさにかまけて不十分な面もあったが、問題意識をもち、授業面でいろいろ工夫をすれば、生徒とともに新たな発見や達成感を味わうことが大変勉強になった。今後もこの経験をさらに生かして発展させるように努めていきたいと思う。